

大学名 広島大学(Town & Gown Office)

第69号 特集テーマ「国立大学のこれから」

表題 強固な産学官連携による新たな地方創生モデル「Town & Gown構想」の構築を目指して

【特色ある取り組み】

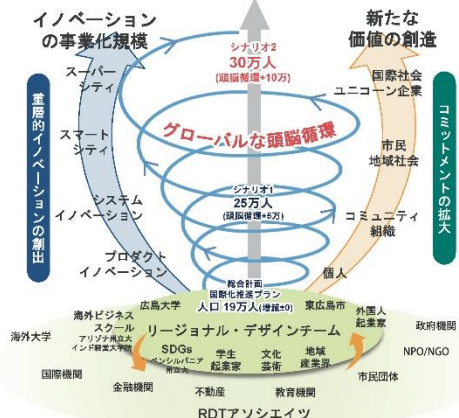
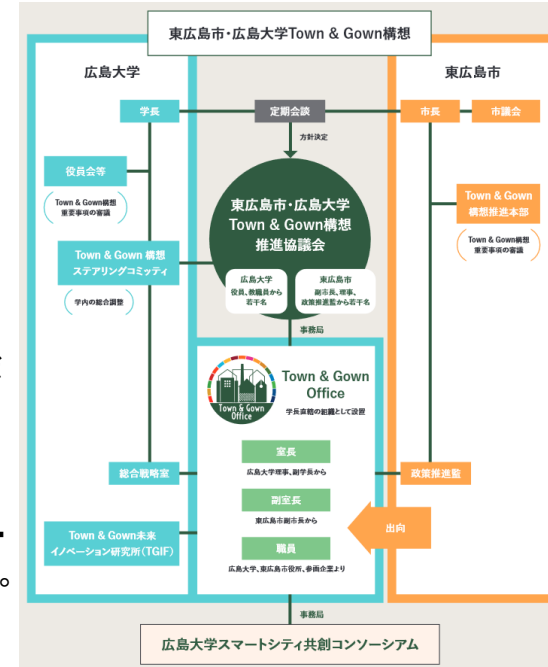
○市と大学が目指す新しい地方創生の形

日本を地域から躍動させるため、Town(=まち)とGown(=大学)が持続可能な未来のビジョンを共有し、包括的、日常的、継続的、組織的な関係を構築の上、自治体の行政資源と大学の教育・研究資源を融合しながら活用。地域課題の解決に資する科学技術イノベーションの社会実装と人材育成のための地域共創の場の形成を通じて地方創生を実現し、持続的な地域の発展と大学の進化をとともに目指す構想が「Town & Gown 構想」。(右図)

この構想の下、令和2年より様々な取り組みと体制構築を行い、令和4年3月に本学と東広島市、当該構想に賛同する企業10社による「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」を設立。民間企業の持つノウハウと資源・自治体とのコミットメントを融合させながら、キャンパスを「1つのまち」と見立てたイノベーション・ commons(共創拠点)において、スマートシティ形成に向けた多種多様な実証実験に取り組み、Society5.0やカーボンニュートラルなど持続可能な未来社会像の実現を目指す。

○Town & Gown構想の横展開

令和5年7月に、「アジアにおける新たな海洋・海事の拠点づくり」に向け、呉市、広島大学、海上保安大学校、公益財団法人笹川平和財団の4者がTown & Gown構想推進の協定を締結。呉市に国際的な教育・研究・社会連携の拠点を置き、呉市のみならず、瀬戸内に集積する海事産業の活性化による地方創生に着手する。また、今後は志を同じくする他の大学や自治体とともに、関係団体と連携した人材育成や構想のモデル化等を図る「全国Town & Gown構想推進協議会」を設立し、当該構想の全国展開へ向けた取り組みも進めていく。



【期待できる成果・評価など】

○アカデミックエンタープライズの本格稼働

これらの取り組みを通じ、地域課題の解決と新たな価値創造、雇用創出や、不動産の収益化、教育提供(企業とのパートナーシップの締結、エグゼクティブ教育の拡大等を含む)によるイノベーション創出などを生み出す。これにより、「共同研究資金・外部調達基金・授業料収入等の拡大」等を通じた新たな大学経営資源を獲得し、さらに高度な課題会計に貢献していく好循環を生み出す大学経営モデル「アカデミックエンタープライズモデル」を実現していく。(左図)